

外来害虫に抵抗性 新品種トマト開発

カゴメ

カゴメは、北海道で深刻化している外来の害虫「ジャガイモシストセンチュウ」と「ジャガイモシロシストセンチュウ」に対して、抵抗性と密度低減効果を持つ加工用トマトを開発した。

ジャガイモシストセンチュウはジャガイモやトマトなどナス科植物の根に寄生し、生育を阻害する。さらに爆発的に増殖するため、一度発生した圃場でのナス科植物の栽培は、そのまん延を助長させることになるという。

カゴメでは、国産加工用トマト原料を持続的に調達するための重要産地のひとつとして、北海道を位置づけ。トマト品種開発の経験を活かし、抵抗性を保有する加工用トマト品種を開発した。寄生されないだけでなく、土壌中の密度を低減させる効果も保有することを、農研機構北海道農業研究センターと共同で確認した。

同品種はすでに「KG M191」として品種登録出願（出願番号34087）しており、2020年より北海道を中心に本格栽培を開始する予定。